

平成29年度 港区立筭小学校 学校経営計画

校長 野村 正 司

1 目指す学校像

人間尊重の精神を基調として、健康で知性・感性・徳性に富み、広く国際社会に信頼と尊敬の得られる児童を育成する。港の教育を目指す学校教育の基本姿勢である「区民に信頼される学校づくり」「区民と共にある学校づくり」「子供たちが誇れる学校づくり」の実現に向け、本校110年の歴史と伝統を鑑み、これからの未来に生きる力を発揮する、たくましい児童の育成を目指す。

学校教育目標 「気づき 考え 進んでおこなう 筭の子ども」

(1) 目指す児童像

- ① 人や社会、自然とのかかわりの中で、様々な問題に気付ける子供
- ② 問題を解決するためにどうしたらよいかを考えられる子供
- ③ 考えたことを進んで実行に移し、達成感を味わい、次の新たな目標をもてる子供

(2) 目指す教職員像

- ① 子供を育む信念をもつ教職員、子供の安心・安全を守る教職員。
- ② 児童・保護者・地域の人々、社会、自然とのかかわりの中で、様々な課題に気付く教職員
- ③ 課題を解決するために、主体的に考え、新たな発想を生み出すことのできる教職員
- ④ 考えや発想を適時に実践に移すとともに、自己評価を適切に行い研鑽する教職員

(3) 目指す学校像

- ① 「温かい心」（敬愛・思いやり・感謝）を育てる学校
- ② 自己実現がかなう「確かな力」を育てる学校
- ③ 「地域への貢献性」を育てる学校

2 中期的目標と方策

港区教育ビジョン並びに港区学校教育推進計画の元、「夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する人」の育成を目指す。また、高陵アカデミー（高陵中学校、本村小学校、本村幼稚園、筭小学校）として、幼小中の連携を図り、「世界に生きる子 ～協働的な学びに取り組む子～」の育成に向け教育活動の充実を図っていく。

(1) 「温かい心」の育成

- ① 全教育活動を通して、自分より立場の弱い人間に対して、思いやりをもって接することができるよう指導していく。
- ② 国や文化、個性の違いを認め合い協力し合う心を育てるために、外部の諸機関や人材を積極的に活用してワールド活動を実施する。他文化理解に努めるとともに、自国の文化にも目を向けさせる。
- ③ 自分の考えをもち、表現できる児童を目指し、学年や学級の枠を超えた話し合い活動を教育課程に位置づけ計画的に実施に努める。
- ④ 全校児童の青少年赤十字（JRC）加盟を継続し、地球的視野に立った国際理解・環境・福祉教育の推進に努める。
- ⑤ 一人一人の想像を楽しく広げ考えを深める時間を設定し、全校一斉読書活動の推進に努める。
- ⑥ 国や文化、個性の違いを理解し合い、ともに楽しむ活動として「筭鼓笛隊」を継続発展させ本校の伝統として推進に努める。
- ⑦ 「さわやかタイム（音楽）」や「のびのびタイム（体育）」を創意工夫し、全校児童が心身

の健康づくりに継続実践するように努める。体力増進については、季節に応じた運動の経験を重視し、全校で一斉に取り組む活動を取り入れる。

- ⑧ 誰に対しても気持ちのよい挨拶をし、意欲的にコミュニケーションをとろうとする意識をもたせる。児童が積極的にあいさつできるよう具体的な取り組みを行う。

(2) 「確かな力」の育成

- ① 「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」の力は、すべての教育活動の基礎となる。国語力を育てることにより、思考力が深まり表現力が一層豊かになることが明らかにされた研究実践の実績を踏まえ、言語活動の充実工夫を図り国語力をより高めるべく学習活動の充実に努める。
- ② 「国際科（英語学習を中心にした国際理解教育）」の充実実施を図り、コミュニケーション力を高め国際人としての資質向上に努める。
- ③ 個に応じた指導を重視し、算数科では第3学年から習熟度別学習を行い、理科、社会、生活科、総合的な学習の時間では個に応じた学習の実施に努める。特に国語・算数ではスキル向上のための時間の充実に努める。
- ④ 学習指導には複数の指導者がかかわるべく、アシスタントティーチャーやスクールボランティアを増員活用充実させ、きめの細かい学習体制に努める。

(3) 「地域への貢献性」の育成（開かれた学校の推進）

- ① 学校は常に開かれ、日々公開の精神で臨み、地域の人たちの学校への思いを受け止め、地域社会のために何ができるかを常に考えられる場の設定に努める。
- ② 心を地域に開き、広い視野からの教育を考える意味で、地域に学ぶ場の設定に努める。
- ③ 学校評議員会をより機能化させ、学校評価システムを充実し、信頼される学校経営に努める。
- ④ 開校110周年の伝統を生かし、記念行事等を通して地域と一体となった特色ある活動に努める。
- ⑤ 双方向性の情報発信（学校公開・各種たより・ホームページ等）をし、学校教育への理解に努める。
- ⑥ 「筭小安全対策マニュアル」を有効的に生かし、児童の安全・安心を図るための方策づくりに努める。

(4) 教職員の資質向上

- ① 主幹教諭を中心とした校内体制をつくり、報告・連絡・相談が適時にできるようにしていく。一人一人が研修課題もち、その解決に向けて取り組む。
- ② 研究・研修の成果を公開し、相互に学び合い教育力向上に努める。
- ③ 各教職員のキャリアに応じて外部機関の研修に取り組むことに努める。
- ④ 配慮を要する児童、帰国児童や外国人児童への対応に向け、教育相談研修を全教職員に対し実施する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 基礎基本の定着と確かな学力の育成

- ① 日常の学習活動の充実を図る。
国語力「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」を基本にし、表す力、考える力の育成

を児童の実態・学力テストの結果を踏まえ、言語活動の充実、学習形態をより工夫し実践する。また、「話す・聞く・読む・書く」ことを通して、「自分の考えを修正したり深めたりしながらより確かなものにする学習活動」を積極的に取り入れる。

- ② 学びの基礎である「関心・意欲・態度」「習得する力」「学習規律」を重視していく。
- ③ 各教科等の「基準性の明確化」「指導時間の確保」を適切に行い、「算小年間指導計画」を計画的に実践し、評価規準に取り入れた「発展的な内容」を実践検証する。
- ④ 個に応じた指導の充実を図るために、算数の指導を第3学年以上は3コースによる習熟度別学習を推進し、理科の指導ではサイエンスアドバイザーの活用を図る。
- ⑤ ICTを活用した授業を全学年で計画的に実施する。電子黒板、タブレット型端末機、デジタル教科書等の有効な活用を図る。
- ⑥ 学習過程での評価や学力テストなどの結果を分析し、学力の実態を把握し指導の改善に努める。
- ⑦ カリキュラム・マネジメントの視点を多教科で取り入れ、児童の主体的な学習の充実を図る。
- ⑧ 図書館に設置されたパソコン等の機器を有効に活用し、学習センターとしての充実を図り個に応じた学習に生かす。「筭百選」をより充実させる。赤坂図書館との連携体制を生かす。
- ⑨ 校内研究を学級経営として取り組み、本校教育目標や児童の実態に応じた研究を進める。また、研究の成果が児童の変容につながる実践的な研究を行う。
- ⑩ 図工学習の一環として、地域の文化施設を活用した美術館教育を全学年で実施する。

(2) 豊かな心と健康な体の育成

- ① 道徳教育の充実を図ることはもとより、各教科・総合的な学習の時間・特別活動の特質に応じて適切な指導を展開、継続していく。また、道徳の時間を各学年の実態に応じて適切に計画実践していく。SNS ルールの設定等を通して、児童の規範意識をより高める。
- ② ワールド活動を要として、人権教育を基盤とした国際理解教育を行う。
- ③ 総合的な学習の時間には、国際理解・環境・福祉を重視し地球規模で物事に気づき考え行動できる力を育てる。近隣大使館と連絡を取り、授業実践の協力を仰ぐ。
- ④ 年間を通して青少年赤十字活動に取り組み、国際理解、環境、福祉の体験を継続的に行う。
- ⑤ 朝の15分間を教育的な活動時間として生かす。週2回は「筭読書タイム」として、全校一斉に取り組む。個別の読書の他に読み聞かせや感想の交換なども行う。週1回は「クラスタイム」として、学級経営につながる諸活動を行う。
- ⑥ 「筭小学校鼓笛隊」（6年生全員）を編成し、毎週の全校朝会時や学校行事の際には演奏活動を行う。
- ⑦ なかよし班活動の充実を図り、思いやりあふれる人間関係を構築させる。
- ⑧ 週2時間の「国際科」の学習を通し、英語に親しみ英語のコミュニケーション力を育てるとともに、自国文化や他国文化への理解を深める。また、指導体制を、担任・国際科専科教員・NTの3で行い、より学習成果を深める。
- ⑨ 始業前に「さわやかタイム・のびのびタイム」を実施し、音楽演奏や体力づくりを通して国や文化、年齢の違いを超えた共に学びあう心の交流を図る。
- ⑩ 日本語学級では、「日本語学級指導事例集」をもとに、個に応じた指導を展開する。外国籍児童には、適時、本人や保護者とのカウンセリングも実施する。
- ⑪ 「コミュニケーションの始まりは挨拶から」を合い言葉に、教職員が積極的に児童に挨拶するだけでなく、学校と保護者、地域が一体となり、児童が自然に気持ちよく挨拶できるような態度を育成する。

- ⑫ 「筭小いじめ防止基本方針」を基にいじめ防止のための年間計画を立て、学期ごとに児童にアンケートを取る。「筭小いじめ対策委員会」を実施し、外部関係者の協力も取り入れながらいじめ防止、早期発見、早期解決に努める。
- ⑬ オリンピック・パラリンピックの精神を理解し、スポーツ・環境・日本文化・国際理解の面から知る・観る・する・支える、の活動を取り入れた授業を実施する。
- ⑭ コ・オーディネーショントレーニングを体育の学習に取り入れ、運動好きな児童を育てる。

(3) 組織力の向上

- ① 定期的な主幹会議、また主任会議を必要に応じて実施し、より組織力の向上を図る。
- ② 特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教室の取り組みを強化する。また、スクールカウンセラーとコーディネーターの連携を図り、組織的教育相談を充実させる。区の施策である特別支援教室の拠点校として、青山小学校、青南小学校と連携を図りながら対象児童への効果的な指導を行っていく。
- ③ 学習環境について日々意識しながら取り組み、日常の実践をより充実させる。
- ④ 図書担当教諭と学校司書・リーディングアドバイザースタッフを中心に、図書館の機能（読書・調べ学習）の充実と図書館だより等を発行することで児童の読書力を高める。
- ⑤ 各校務分掌組織が、任された案件について十分に検討し原案作成をすることにより、全体での会議回数や会議時間の縮減を図る。4部会の効率性を生かした体制で臨む。
- ⑥ 職員会議の法的な根拠を踏まえた効果的な運営を行う。
- ⑦ 学校予算の計画的執行を遅くとも年内に行い、購入したものは有効に活用する。
- ⑧ 全教職員が「文書規定」による文書処理を確実に行う。
- ⑨ 用務主事と連携し、安全第一とした効率的な運営を行う。
- ⑩ 学校経営支援会議を週に一度実施し、副校長と事務、用務との連携強化を図る。

(4) 教職員の資質向上

- ① 個々のキャリアプランの実現を目指し、自己申告シートでの将来的な目標とその目標に向けての方策等について具体的に指導する。
- ② 英語活動の研修計画に従い、質の高い研修に全員で取り組む。
- ③ 各研修や3・4年次研修による研修の成果を全体に示し、その学びを共有し合う。
- ④ 習熟度別学習の計画や方法について研修し深め合う。
- ⑤ 学年学級経営案、専科経営案、週学習計画案の提出100%を完全実施する。
- ⑥ 意図的・計画的な教育活動の具現、教育課程の実施を図るため、週学習計画案（週案簿）の活用（PDC）を重視する。
- ⑦ 月1回の服務事故研修を通し、公務員として服務を遵守させ、服務違反者0とする。
- ⑧ 言葉遣いや服装等、教職員にふさわしいものとなるよう努める。
- ⑨ ワークライフバランスへの意識を高め、各自がタイムマネジメントの意識を持ちながら職務に取り組めるよう配慮する。管理職自らが行動を通して伝えると同時に、職務の効率的な取り組みについて、常に計画・実践する。

(5) 開かれた学校経営

- ① 学校評議委員会を年間3回実施し、学校経営にかかわる問題について協議する。
- ② 学校評価は、学期毎の学校公開（各学期1回）学校評議員会（3回）PTA運営委員会の場を活用し、地域・保護者・学校評議員・教職員により実施する。

- ③ 日々学校公開を前提とし、学校公開日を1学期2日、2学期2日、3学期2日を設定する。2学期には、道徳授業地区公開講座を開く。
- ④ P T Aの健全育成事業や高陵地区委員会の活動に協力し、「フェスタ筭」「高陵地区スポーツ大会」「さよなら夏休み」「もちつき大会」等に教職員が主体的に参加するよう配慮する。
- ⑤ 学校のホームページを適宜更新し、常に新しい情報の提供に努める。
- ⑥ 防災、不審者対策など安全確保に向けた「筭小安全対策マニュアル」を活かし、地域や保護者の協力を得ながら訓練等を行う。
- ⑦ 聖心女子大学と連携し、教育職を目指す学生の育成に協力するとともに、希望があればアシスタントティーチャーとして学生を採用していく。
- ⑧ 「放課後児童育成事業（放課GO・学童保育）」に協力する。
- ⑨ 保護者のための教育相談を行い、校長・副校長・養護教諭・スクールカウンセラー等がかかわる。
- ⑩ 緊急メール配信システムを有効活用するために、保護者に呼びかけ、100%の加入を目指す。